



Tohto University  
Sincerity with Compassion

# President's Newsletter

Vol. 5 2025年6月5日

## 農学部(仮称)設置準備室がオープンしました

本学農学部(仮称)の設置を推進するために、農学部(仮称)設置準備室を設け、去る6月2日、「農学部(仮称)設置準備室キックオフミーティング」を開催いたしました。今後の18歳人口の減少という厳しい社会情勢をふまえ、小規模大学である本学が地域とともに持続的に発展していくためには、教育・研究の質的な転換と社会的意義のある学部構成への“バージョンアップ”が必要です。

本学は独立行政法人大学改革支援・学位授与機構による「令和5年度大学・高専機能強化支援事業」に採択され、学部再編にかかる補助金を受ける機会を得ました。これにより、管理栄養学部の再編を行い、本学の強みである医療系教育、そして農業の盛んな地域資源を有する埼玉県深谷市を融合させた、質の高い教育展開を目指します。

周知のとおり、来年度より現行の管理栄養学部の学生募集を停止し、2027年度以降を目標に、深谷キャンパス(2号館)を拠点として農学部農食栄養学科(仮称)を新設する計画が進行中です。これは、管理栄養学教育の機能を本学の強みである「医療×農学×栄養」の観点から再定義し、新学部の中でより高付加価値な教育として再編成していくことを意味しています。

今回のキックオフミーティングでは、学長をはじめ、設置準備室長となる東京大学大学院農学生命科学研究科教授根本圭介先生、関係教職員が会し、新学部設置に向けたビジョンの共有、準備体制の確認、今後のタスク整理などが行われました。今後は、設置認可申請に向けて、カリキュラム設計・教員配置・施設整備・地域連携等、多岐にわたる準備を着実に進めてまいります。



去る6月3日に開催された文部科学省の高等教育政策の現状と課題についての情報提供では、2025年度が大学進学者数のピークで、今後漸減しさらに2033年後以降に急速に減少するので、大学の統廃合が進むことは避けられないことが示されました。今後支援を受ける私立大学は、地域のニーズやエッセンシャルワーカーとして必要される人材育成プログラム、農業など地域振興と連携した教育プログラム、労働人口の減少にも対応する留学生就職促進につながる教育プログラム、グローバル人材、研究を含めた国際競争力を持つ大学などで、一方現状を変えない大学、縮小する大学については淘汰される将来像が示されました。このような社会状況において、本学が深谷キャンパスに計画する農学部は、地域産業、行政のニーズや、普通および農業高校の生徒の動向を踏まえ、「土から口」のゼネラリストとスペシャリストを育成するというコンセプトで、農業生産、食品加工、栄養・管理栄養を一つの学部学科で、学生が選択する幾つかのコースに分かれて学習できる教育プログラムを作ります。地域の農作者、食品企業、行政、さらに高校および埼玉工業大学との連携により、入学前から在学中の臨地実習、インターンシップそして卒業後のキャリア支援など、これまで医療系大学として培ってきた教育力に新たな実務者、教育者、研究者教育を融合した特色ある教育プログラムを作ります。本学の計画に対しては学位授与機構の進捗評価で高評価を得ており、深谷市からも期待されています。現在、設置申請に向けての作業が進められていますが、既存の学部学科との連携も加えて行く予定です。教職員の皆様のご理解ご協力をお願いします。



農学部(仮称)設置準備室：深谷キャンパス2号館2階